

第15回「文芸思潮」エッセイ賞 中間発表 一次・二次・三次予選

●第15回「文芸思潮」エッセイ賞に御応募いただき、まことにありがとうございます。おかげさまで、日本全国および海外から総数二七七編の作品をお寄せいただきました。心から御礼申し上げます。去る三月末日に締め切らせていただき、厳正な一次・二次・三次予選審査を行いました。その結果を謹んでここに発表させていただきます。無印は一次予選通過者、○印は二次予選通過者、◎印は三次予選通過者です。

北海道

- 「無」 斉藤はな絵
○「海色ノート」 中村郁恵
○「ドレとミの音がでない」 河原梨香子

- 「山小屋温泉」 瀧沢 鈴
○「単身赴任」 今ちゃん
○「貯金これだけでよく平気だね」 柴田節子

- 「道は遠い」 栗山佳子
○「セントラルドグマの花束」 道塚 瞬

- 「電話」 藤木雅子
○「属する世界がない私」 鎌田かをり

- 「父」 鎌田 誠
○「トマト」 暁夏

哀歌

- 「弟、三津男よ」 葩島彊子

青森県

- 「事務室より」 高岡隆一郎
○「べこ石の浜辺で」 金田一淳
○「足して割二」 菊池満子
○「コロナショックの平等性」 松橋倫久

- 「同姓同名 泣き笑い人生」 金田正太郎

宮城県

- 「それはそれで良い」 吉田宏子
○「呻き」 七羽鳩子
○「冬を歩く」 月草かつみ

秋田県

- 「甥っ子の言葉から」 青風

千葉県

- 「けっぱり先生と私」 山水文絵
○「スマスマはパンドラの箱を開けた」 須磨貴美子

- 「よもぎ餅と新型コロナウイルス」 下村きよ子

- 「瓶が教えてくれた夫婦のカタチ」 結咲りと
○「さよならゆうれい」 鷺田ヨウ

- 「席を譲る」 最善説について」 市水 天
○「いじめ根絶への一意見」 森惇

東京都

- 「聴覚障害者の運動と精神障害者の運動を比較して」 横山典子
○「成年後見制度は法の下の虐待である」 佐生綾子

- 「虫とりと、おじいさんと」 宮下さつき
○「ケロリン日記」 古城美夜

- 「振り袖物語」 三宅直子
○「小さな発見 野菜の祖先と出会った旅」 本間 浩

- 「私の戦中戦後 横須賀にて」 伊藤秋子
○「夏のガラガラ」 前田和守

- 「霊魂」 auehako
○「送る人」 九条之子
○「感謝」 佐藤名緒子
○「脳腫瘍闘病記」 出雲文字

山形県

- 「仕事が休み」 磯部美代子

福島県

- 「墓参」 西嶋雅博

- 「へりにて救助されるも、後の分断」 佐藤悦弘

- 「春の傍らで」 ペペもんちーの

茨城県

- 「我が母に宛てた手紙」 磯山正玄

- 「新しき村考」 上野 達

- 「感謝のワンカップ」 青柳みずす

- 「飛ぶ夢」 奥井麻緒

栃木県

- 「15人に1人の私に見えたもの」 中山エミリオ

- 「不可抗力を待つまでもなく」 斎藤一興

群馬県

- 「浅間山噴火大和讃」が繋ぐ鎌原の命」 村松佐保

- 「看護師が全て」 紙屋里子

埼玉県

- 「油と鎌と冒険の三日間」 竹澤一晃

神奈川県

- 「一駅散歩」 武田貴久子

- 「遠回りの私の人生（池田運さんの場合）」 黒岡 實

神奈川県

- 「フクロウとの生活」 Maddy

- 「終戦のころ」 神宮清志

- 「心の橋」 松島さおり

- 「障害者」を作るのは誰か」 深谷満彦

- 「百万本の鉛筆」 ゴルビー長田

- 「山田耕筈とマニキュア」 藤田陽子

- 「顕在化していない日本人の問題について」 デヒミフカオ

- 「作業所と学生の間で」 福井雅人

- 「今宵はひたすら人類の未来について思いを馳せる」 蝶野うらら

- 「アンマーよ 私を愛してくれました」 渡慶次エマ

- 「寮生活泣き笑い」 三上悦子

- 「夢を追う覚悟」 小倉一純

- 「僕の十八年間」 長谷川皓大

- 「種を掴み取る人」 漣 碧人

- 「泣き寝入り」 中村多恵

- 「かにばば」 林勢津子

- 「靴を揃える」 呉 由美

- 「土地が下す運命」 横井純子

- 「父の最後の思い」 竹園レイラ

- 「カメさんと言われた生き方の先に」 さおり

- 「床上浸水」 松山はな

- 「二八」 沙裕梨

- 「何で日本人は金遣いが下手すぎるのか？」 三日月李衣

- 「金を払って人に会う」 大道寺みなも

- 「告白」 田中麻莉子

- 「人生最後は特上握り」 宮永徹子

- 「彩の国風花抄」 木村雅樹

- 「台風その後で」 南條美起子

- 「昭和20年4月、17才の叔母は」 古森 麗

- 「ああ、彰義隊」 水沢小三郎

- 「喜寿の免許皆伝」 小島恒夫

- 「やっぱり火付けの罪は重い」 司馬久護

- 「添え木」 時雨

- 「私の中の京都」 溝口尚志

- 「ニライカナイを求めて」 春次哲介

- 「幸せ、優しさ、人として今思うこと」 ゆきんこ

- 「狐が池に念う」 柳原一夫

- 「国境」 松原泰子

- 「始まりの月曜日」 宮川星華

- 「ある日の出来事」 田代光太郎

- 「人間が嫌いで仕方ありません」 小高功太

- 「かっこいい普通の人々」 定本清美

- 「帰郷」 田所アキラ

- 「祭りの後」 長谷川昌孝

- 「新潟県」 相馬 晃

- 「詩集制作」 有澤かおり

- 「幻の約束」 今西 梓

- 「地球の反対側から」 早月春美

- 「育休が明けるその前に」 窪田真知子

- 「石川県」 酒井恵三

- 「スターライトパレード」 近藤幹夫

- 「旅愁」 藤宮 麗

- 「人間兵士」 近藤幹夫

- 「富士の見える温泉にて」 グランマ多賀子

- 「恩師への思い」 佐高 源

- 「失われる日本らしさ」 久保浩

- 「痛のバカヤロー」 倉沢辰子

- 「亀」 田中浩司

■長野県

- 「多喜さんのこと」 坂口保典
- 「平均」 きなりかず
- 「炸裂男子」 山家衛良
- 「ノスタルジア」 西條由美子
- 「叔父の借書」 澤井樹生
- 「今 私のできる事」

■岐阜県

- 「呼吸不足の私」 金井つね子
- 「小鳥のえさ台」 井崎 青
- 「さよならのリフレイン」 矢口慎三
- 「新聞紙然れど新聞カゴ」 秋葉みのり
- 「昭和四十年代のプロ野球」 平岡佐一郎
- 「昭和三十九年のプロ野球」 うちゅうちゃん

■静岡県

- 「ビーバーの目」 藪口莉那
- 「ゴミ拾いをしてたら、すてきな出会いがありました」大塚遥香
- 「駐輪場の明暗」 長谷川敏久
- 「地獄的」 世秋恭之介
- 「愛知県」
- 「破り捨てた招待状」 菱川町子
- 「共存」 谷山千茂枝
- 「米国ケンタッキー州でのほのぼの出産」 谷美智彦
- 「親から学んだ仕事観を息子に繋ぐ」 久保吟永

■愛知県

- 「私の、ジュリー考」 谷口ゆみ子
- 「声」 牧野香織
- 「奈良県」
- 「日本語教師、九・一一直後のアメリカに行く」 中山とし子
- 「旅は一人旅が最高」 田川 進
- 「和歌山県」
- 「寡黙な寿司屋の大將」 大宮新子

■鳥取県

- 「山崩れの経験」 南家久光
- 「春過ぎて……」 森兼俊治
- 「暮れの戒め」 岡崎圭子
- 「島根県」
- 「立ち食いそばラブ」 杉山高志
- 「紋切型言葉というデイストピア」 宮崎啓吾
- 「心を見つめ直して」 土田菜呼
- 「岡山県」
- 「私のダイエット日記」 かおるん
- 「かくして民族は滅ぶのか」 倉坂葉子
- 「一冊の本をいつもそばに」 片島まもる
- 「神様はいます〜なんでもうつ病になってしまったのか」岩崎彷徨
- 「人生100年時代 後半からがおもしろい」 ぼしのあかり

○「絵イコル人生」 宮尾美明

- 「心の扉」 玻璃
- 「パッヘルベルの『カノン』考」 原田雄介
- 「大病を患って見つけたもの」 清水将一
- 「魂身の一枚」 青木俊克
- 「新型コロナウイルスに、神風は吹いたか？」 西野清咲
- 「質屋の女房」 三浦明光
- 「三重県」
- 「フランス人に着付けを教える」 富山正美
- 「川のように時は流れる」は 平安名尚
- 「もうひとつの修学旅行」 柚木鋸子
- 「原始的と最新の歯医者治療」 岩谷隆司
- 「滋賀県」
- 「ビジョン・ブラッド」 西木美彦
- 「ひとすじの光」 山崎ひとみ
- 「罪か罰」 巻貝 基
- 「バック・トゥー・ザ・昭和30年代(パートII)」 山本 修
- 「武漢新型コロナウイルスの正体」 田中堅左衛門
- 「京都府」
- 「チキンライス」 下河原田吾作
- 「おみそ入れ」 高橋裕輝子
- 「息子の学生服」 家森澄子
- 「広島県」
- 「われらの紀元二千六百年」 梶川洋一郎
- 「ブレイキテスト」 合原和晴
- 「人間は『心』の動物である」 山崎美由紀
- 「パラリンピックを国連障害者憲章の視点で考える」 徳安利之
- 「微笑みの街・ホイアン」 横山太一
- 「山口県」
- 「好きの記憶」 松本侑子
- 「徳島県」
- 「沙漠に生きる」 朝生その子
- 「昭和の日々」 富登千恵子
- 「香川県」
- 「さいごの証明写真」 すぎむらみずほ
- 「心の準備」 亀山憲子
- 「愛媛県」
- 「人間五十年」 比戸 圭
- 「福岡県」
- 「方舟」に乗って」西 義之
- 「私の幸せは、大量のオスひよこの死骸の上に成り立っている」 都桜ナオミ
- 「夢を紡ぐ手」 森千恵子
- 「さよならモチの木」 藤崎良子

○「じっちゃんとの追憶」

- 「私を待つ人」 あらはん
- 「阿久悠試論」 松田正弘
- 「心を豊かに」 徳田吉映
- 「人生百年時代」 森 健人
- 「シチロベエさんの作戦」 林 須磨
- 「父の手紙」 植田郁子
- 「誰のための？」 岸田映子
- 「山登りは好き？」 パステル三毛りんこ
- 「移動の自由と喜びを求めて」 山野すみれ
- 「ジャイ子」 藤野高明
- 「裏方30年の轍」 田中美晴
- 「祖母の眉」 森崎律子
- 「0という数字」 アマネイコ
- 「仁吉の背中」 徳重三恵
- 「そば打ちにハマる高校生」 山田まさ子
- 「マナーを届けよう！」藤田侃
- 「めげないで」 しおみつこ
- 「一万五千歩の旅」 滝尾鋭治
- 「お堀へドボン」 津森悠平
- 「蟬」 杉本増生
- 「ドイツで髪を切ってもらったら」 湯谷大志
- 「ようこそ地球村『雑草園』に」
- 「父のキセキ」 重松博昭
- 「引上げ」 武中 彩
- 「いちようの木」 さとうゆきの
- 「3秒ルール」 一ノ宮けんしゅう
- 「認知症の真実」 安部としき
- 「私の思う先に」 森 由美
- 「コロナウイルスに関する情報発信考」 荒木景子
- 「佐賀県」
- 「石の煙」 佳山そら
- 「趣味と自己満足」 那須修一
- 「長崎県」
- 「全ての女子達に幸あれ」 堤万里子
- 「熊本県」
- 「大阿蘇の野焼き」 澄菜嬉恋瑠
- 「大分県」
- 「今」を楽しむ」 上原翠子
- 「牛の涙」 山野澄子
- 「宮崎県」
- 「あの子とその母、そして父」 羽田 良
- 「鹿児島県」
- 「KYですが……何か？」 中武 寛
- 「銀の指輪」 松橋プリン
- 「野村あさ子

○「ビバ、ルフトハンザのかわい子ちゃん」

- 「障害者が働くということ」 坂本真司
- 「落語とスピリチュアルな生き方」 黒江良子
- 「宿命やなあー」 松田良弘
- 「正月に」 朝川 渡
- 「雪の日のマジック」 中村康志
- 「息子への感謝状」 藤野なつみ
- 「戦没者遺児が考える太平洋戦争」 白楊風子
- 「マイノリティーブルース」 川口正浩
- 「祖母のミルクセーキ」 七瀬柚子
- 「島を救った一人の高校生の行動」 福永祥子
- 「クサティとしての黄金森へ」 島村 襄
- 「診察枕の草子 スイカ編」 室園美音
- 「絵の手紙」 ちひろ
- 「ピオラ」 日暮真由美
- 「汝自身を知れ」 ペジエン
- 「海外」
- 「寝る場所」 松橋プリン
- 「銀の指輪」 野村あさ子

エッセイ賞応募者の皆様へ 第一次・第二次・第三次の選考基準について

●第15回「文芸思潮」エッセイ賞への御応募まことにありがとうございます。第一次・第二次・第三次選考について選考委員会より付記させていただきます。

第一次の選考基準は、他者に対して伝わる文章になっていくかどうかが最重要の基準点です。しかし書く姿勢も加味させていただきました。少し文章が粗くても、他者に訴えたい切実なものが感じられる作品は一次を通過しています。また逆に文章は整っていても、書く姿勢に曖昧なもの、書く必然性が希薄なもの、中途半端なものは落とさせていただきました。この二点をクリアしたものが一次予選通過者です。何%とか、何篇以内とか、数字の枠はありません。したがって、応募者全員が一次予選合格ということもありません。

また第二次予選は、その中でさらに強く何かが感じられるもの、光るものを選びます。何かが読み手の中に残っている作品ということになります。内容でもいいですし、文章でもいい、一行でもいい、一人の人物でもいい、見方でもいい、何か一つ心に残るようなものがあると、上に拾い上げたくなるという、一つの魅力を持っているかどうかポイントになります。

第三次予選は、よりたくさんの人に読んでほしいくなるような普遍的な力を備えているかが、選考の基準になります。第三次予選まで通過した作品は、だいたい雑誌に載っていてもいい、人に読んでもらっても何か訴える力を備えていて、読んだ人の心に何かが残って新たな力になるような作品です。

「文芸思潮」選考委員会では、選考の便宜性を重視して作品数によって制限するのではなく、作品の内容を重視して、優れた作品がたくさんあれば、できるだけその作品の価値やレベルによって、作品を残すよう心がけています。したがって、場合によってはたくさん作品が三次予選、さら

にその上に選出される可能性もあります。今年第15回も三次予選通過者が多く、応募作品全体の水準が上がっていることを実感しております。

もっと詳しく御自分の作品への感想・批評が聞きになりたい方は、作品個別の「批評コメント」もご利用いただけます。どうぞ御希望をお送り下さい。

〔「文芸思潮」エッセイ賞選考委員会〕

**破壊者たち**

**五十嵐勉**

広島へ原爆投下に向かうB29の乗組員たち。殺戮の果てしない行為を辿るカンボジアの少年ボル・ポト兵。さらに平和な東京のマネキンを壊すアルバイトの中に潜む破壊の連鎖。破壊者たちの行為を追う新・破壊小説

アジア文化社

1700円 御注文はアジア文化社まで

小説の書き方を体験を踏まえて丁寧に解説する小説指導書

小説の書き方

——作家を志す人のために——

五十嵐 勉

税込 1000円 御注文はアジア文化社まで